

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社 サラサホーム		
事業所名	サラサホーム (2階ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市手賀野403-5		
自己評価作成日	令和2年12月30日	評価結果市町村受理日	令和3年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171500313-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階ユニットは、食堂・居間等が少し狭い感じですが男性が2人います。自分の家の様に自由に過ごせるホームだと思って職員と和やかに日々の暮らしを過ごして頂いております。居室からの風景が、住宅となってしまったのが少し残念に思います。「新型コロナウイルス」が流行して、もう少しで一年になりますが、ホームの中だけの暮らしでも満足して頂いています。ホーム内は明るく高齢者独特の匂いもなく楽しい暮らしの場だと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の中心地に近いが、遠くには山々が見える静かな環境にある。利用者の居室と共用空間は2階と3階にあり、見晴らしが良かったが、以前よりは周辺に住宅が増えてきている。昨年から続く、新型コロナ感染症予防・感染拡大防止対策として、利用者を守ることを第一に考え、外部との接触や外出を自粛している。家族との面会は事前連絡を受け、1階フロアで10分程の面会を実施したり、利用者の日頃の様子がわかる写真を掲載した便りを送付している。利用者にも今の状況をわかりやすく説明し、管理者と職員は職場外での行動についても、感染予防の為「新しい生活様式」を実践しながら、一丸となって支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2階ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、認知症高齢者が安心・安全に暮らせるものとして、職員と話し合っってケア理念を作成したもので有り、管理者・職員で共有して実践に繋げている。	運営方針及びケア理念を、事務室や利用者の共用スペース壁面に掲示している。朝夕の引き継ぎ時には、理念に沿ったケアを行っているか、常に職員間で振り返りながら共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	手賀野地域にサラサホームが設立され地域密着となった時点には、地域の方がたを見学に引きグループホームを理解して頂き、今日に至っている。	自治会発行の定期新聞を受け取り、地域の情報を得ている。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、地域との交流や行事への参加を控えているが、近隣住民から野菜の差し入れもあり、良好な関係を継続している。収束後には、小学校や地域との付き合いを再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所と地域は2008年から認知症を理解して頂く為に、昼食を一緒に食べて会話をしたり「いい日・いい日介護の日」を地域の主婦の実習としてを本年度まで、一度も欠かした事無く実施してきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年度は「新型コロナウイルス」の為、一度も実施出来ませんでした、「サラサだより」と案内はお届けしております。	通常の運営推進会議の開催が困難なため、参加メンバーの意向を聞きながら、書面会議に切り替えている。事業所の行事計画やサービス状況、利用者の様子を写真と文書で伝え、意見やアドバイス聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、長年のお付き合いもあり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。	随時、新型コロナ関連情報等を受けながら、運営推進会議の書面会議録の提出や、困難事例の相談等、助言を得るなど協力関係を築いている。以前は、市の協力で地震体験車を借り、地域住民に参加を呼びかけて地震体験を開催したこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束なる行為は禁じて来ました。2階・3階がユニットになっており、1階は事務員と管理者が休みの日は時々玄関に鍵をかける場合がありますが、どちらかが休みの日はインターホンで連絡をお願いしている。	毎月、身体拘束廃止委員会と職員の学習会を実施している。学習会では、拘束のないケアが出来ているかを振り返りながら、職員間で確認し、実践につなげている。また、年1回、全職員に身体拘束と虐待について、思いを文章化させる事で、確認と自覚につなげ、身体拘束をしないケアの実践につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2階・3階とも虐待については会議の中で話し合っているが、「言葉の虐待なる言葉」は2階・3階もないと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を活用している方は、2階に1名と3階に1名おられます。成年後見制度に対して学べる機会が有ると良いです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時点も同じですが、契約前に十分な説明を行い、納得の上で入所をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望も取り入れながら、その人らしく安心して日常生活が送れる支援をしているが、「コロナウイルス」流行の為に、望みある体制が困難だった。	家族には、請求書を送る際に、本人の生活状況がわかるよう写真入り「サラサだより」を同封している。また、メール等でも写真や動画を送り、家族の安心につなげている。意見や要望は、面会時や電話で聞いたり、年1回家族アンケートも実施しながら、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	認知症介護は、以前とは異なり職員の要望や意見を取り入れたいが、現在は介護を希望する人材が少なくなり反映させる事、事態が困難になってきている。本年度は一度も運営推進会議ができなかった。	管理者は、職員が話しやすい職場環境作りに努め、ミーティングやカンファレンスでは、職員も自由に意見や提案を出すことができる。日常業務の中でも、ケアの改善点や行事の工夫などを聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働く意欲、質の向上の確保に対して努力をして学びたいと思う人材が少なくなり、自分の都合を優先させてしまう人材が多くなったと感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みとは、大変な努力と忍耐が必要になってきました。職場環境や条件について考えを変える必要もありと思われます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度は、同業者と交流する機会も持ち、サービスの質の向上もされてきたが、今年度は「新型コロナウイルス」の流行にて、そうした環境も、残念ながら全くなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サラサホーム的には、入所の時間は他利用者と一緒に昼食を食べる事から始めています。ご家族様はその時点で契約をしますが、ご飯を食べながら他利用者の方と会話が出来、自然になじめるものと思います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の居ない契約時に要望とか注意等お話し頂き、困った事等の把握を致します。(入所日と契約が決まる時点でホームの方針とか、本人様の様子等もお聞きしている)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	2階も3階も、会話の中から、本人の心の中を読み取り、ご本人の必要としていることからサービスが始まります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	2階、3階も同じく、本人を介護される側ではなく暮らしを共にする者同士として本人を支えていく関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族様との「絆」を大切にしながら共に本人を支えていく関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	私達の理想はそうですが大変に困難な事です。本人が大切にしてきた馴染みの場所や人との関係は応援は出来ても、ご家族様でないと出来ない事もあります。「コロナウイルス」が落ちついたらいろいろの面で支援に努めたい。	1階フロアにて、短時間の面会を一時的に再開したが、家族の方から、面会を控える傾向が見られた。家族や友人との繋がりが疎遠にならないよう、利用者の写真や日常生活の動画送信、友人からの手紙や年賀状のやり取りを、これまで以上に支援し、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2階ユニットも3階ユニットも支え合って生活している姿がみられ微笑ましく思います。人間ですから、時には気分悪くして居室に入ってしまう事も有りますが、仕方ない事と見守ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、残された方への気持ちを大切に、相談を受けたりお付き合いを継続してるお方様もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、その人らしく生きられる支援をしたい。本年度は、「新型コロナウイルス」の為、外出も出来なく、出来る限りその人らしく生きられる支援をしたい。希望、意向の把握に努め本人が納得して暮らせる支援をする。	職員は、日々の生活支援の中で、利用者の思いや意向を傾聴するよう心がけている。就寝前の落ち着いた時間帯や、何気ないつぶやきからも思いを推測している。それらを個別記録に残し、職員間で共有している。本人の希望で、外部から来訪を受け、将棋を楽しめるよう支援した事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握は出来ているが、男性利用者が2名いて、一緒に歌を楽しんだり、こだわる事もなく日常生活を送っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面会も出来ず、心身の状態が悪いと感じられるお方には声掛け等を多くして見守りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、介護計画とモニタリングは行い現状に即した介護計画を作成しケア日誌に記入して様子を観察している。	介護計画は、本人・家族の意見と職員の意見や3か月毎のモニタリング結果を活かし、計画担当者が作成している。新規入居者の場合は、1ヶ月仮計画を立てて支援し、その後は、現状に沿った適切な支援となるよう介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	上記と同じだが、ケアの実践など職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況等ニーズに対応して柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域との関わりは大変に恵まれたホームだと思います。手作りの野菜等を頂いたり本当に親身になって相談に乗って下さるし協力もして下さい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に変化があれば、協力医に相談し適切な医療を受けられるようお願いしている。ご家族様と相談して適切な医療を受けられる様に支援している。	かかりつけ医は本人・家族の希望で選択している。協力医を選択した利用者は月2回の往診を受けている。受診は家族同行を基本にしているが、緊急時や急変時、精神科受診時には管理者や職員が同行し、医療管理や介護での留意点を聞き、ケアや体調管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化が感じられたら協力医に相談し紹介状をお願いしたり、適切な受診ができる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院に至った場合は、早期に退院できる様、病院関係者と情報交換や相談等を行っており、共に関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族様と終末期の有り方については、事業所で出来ることは十分に説明しながら方針を共有して支援させて頂いている。	重度化や終末期の指針があり、家族に説明を行い、同意書も作成している。利用者の状態変化があった場合は、段階的に家族と担当医、職員が話し合いを重ね、家族の納得が得られるよう、医療機関や施設を紹介している。また、今年度は、家族の意向を尊重して自然な看取り介護も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練については、長年定期的に行っていたが、本年度はコロナウイルスの為に、そうした訓練の実施は一度も行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難については、必要な物品は保管している。日中であれば職員の数も多くいるが、夜間に災害がおこった場合の体制については話し合っている。	今年度は、コロナ禍にあった為、避難訓練を中止し、防災用品の点検と設置場所の確認、備蓄品の品目や賞味期限の確認、利用者の誘導方法や支援体制の確認を行った。通報装置は区長へ連絡が入り、地域の協力が得られるシステムとなっている。防災ヘルメットや非常持ち出し用品も、廊下壁に吊り下げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所している利用者の皆さんは、家族として一緒に生活している。特別でない限りは、自分の部屋として自由に暮らして頂いています。	職員は、ケア理念及び指針を基に支援に取り組み、言葉遣いや態度で利用者の誇りを傷つけることのないよう心がけている。また、常に、利用者一人ひとりのプライバシーと羞恥心に配慮しながら、排泄介助や入浴介助に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が言葉に出して話せない事は日常生活を観察していれば大体の事は理解できる。その場合は自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせず、一人ひとりのペースを大切に、自分の家だと思って過せる支援をしたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに対して気になる人は全員ではないが、2階・3階に数人いる。言われても気にならない人もいるが職員は声をかけて支援していくべきだと思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近年では、以前とは変わったと感じる。食事作りのお手伝いを希望する方が居なくなりました。職員の手作りの食事が楽しみな利用者様が多くなりました。	料理の得意な職員が多く、家庭的な味付け、多種多様なメニューで品数も多く、器や彩りを工夫しながら、利用者の咀嚼力に合わせて提供している。一緒に食事作りをすることは難しくなってきたが、テーブル拭きや後片付け等、できる事で関わりながら、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや量の把握は、職員は理解している為に体調に合わせた量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ホームでは、朝夕の口腔ケアで清潔を保って頂いているが、自らお昼もケアを自身で行っている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけている為にトイレにお誘いする方もいるが、自分からトイレに行かれても、どうしても、おもらしではないけれど排泄が上手くできない方もおられズボンが汚染されている時もある。	職員は、利用者一人ひとりの排泄記録から、排泄パターンを把握し、声掛けと誘導でトイレでの排泄を支援している。失敗があっても、本人のプライドを傷つけないよう配慮している。夜間は個別に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は芋類・野菜などを多く食べて頂いているが、便秘に悩まされている方が、各階で2名ずつ位はいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて入浴を楽しめる様にしている。毎日入浴は出来るが基本は週に3日程です。行事以外の日には、ほとんど入浴できる。	入浴は利用者の体調や希望に合わせて、日程を調整しながら対応している。また、入浴個別確認表により、利用者に合わせて、職員が統一した介助が出来るよう努めている。入浴剤や季節の柚子湯等で、気分を変えて楽しめる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の家と同じ様に暮らせるホームを望んでいます。日中のお昼寝でも、安心して自室で休める状態を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法用量については理解しているが、協力医に相談して変更になる場合もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しい外出支援も、今年度はできませんでした。「新型コロナウイルス」の為ホーム内での小さな行事のみで終わってしまいました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援も面会も出来ず「新型コロナウイルス」が早く終息すれば良いと思うのみです。現在は寒くて頻繁には外には出られない状況だが、日光浴をかねて庭に出られる工夫をし、支援していきたいと考えている。	コロナ禍の今、外出支援が難しいため、天気の良い日には、外気浴を兼ねてテラスでお茶を楽しんでいる。また、室内で出来るレクリエーションや、塗り絵、カード遊び、カラオケ等を楽しめるよう工夫している。	今後も感染対策は必須であるが、天候を見ながら、利用者の気分転換の為、戸外に出る工夫や室内でのリハビリ体操等で、身体機能低下を予防し、残存能力の維持継続ができる支援に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に対しては、今まで一度も自分の手持ちを持ち歩く方はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのご家族とお話しされる方は時々ありますが、一人位の方だけです。手紙は良く頂きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地の良い空間づくりは、現在のままで良いと思います。異臭がない事が自慢でしょうか。高齢者独特の異臭が感じられない。歩行が安定している入居者様は自由にホーム内を歩かれており、居心地良く暮らせていると思います。	2Fと3Fに各ユニットがある。共用空間は明るく、窓越しに街並みが一望でき、近隣住民の往来を目にすることもできる。廊下には、ホームのこれまでの足跡の写真が掲げている。温湿度が適切に管理され、異臭もない。ホームで亀やメダカ、金魚を飼育しており、利用者がそれらの世話を楽しみながら、役割りとして担っている。利用者は、ソファや椅子、個々に好きな場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	だいたい共用空間で過ごされる利用者様が多く、自由に暮せるホームです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり荷物が有っても、本人が混乱してしまう為、あっさり片付けやすくしています。長年の経験から、そのように感じました。	エアコン・クローゼット・ベッドが備えられ、トイレ付きの部屋もあり、どの部屋も整理整頓されている。馴染み家具を持ち込み、家族の写真、ぬいぐるみ、趣味の物を飾り、居心地よく過ごせる居室になっている。鍵穴にこだわる利用者の居室には、飾りで目隠しをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の仕事を手伝って下さる方もいれば、いろいろです。自分の家と思って安心と安全に暮して頂く支援をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313	
法人名	有限会社 サラサホーム	
事業所名	サラサホーム (3階ユニット)	
所在地	岐阜県中津川市手賀野403-5	
自己評価作成日	令和2年12月30日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>3階ユニットは、女性ばかりでベツ上で過ごされるお方が2名居ますが、皆さんが集まって、お手伝いやレクレーション・パズルなど様々な事をしてる様子を見てると、とても和やかな感じを受けます。窓の外は住宅の屋根なので雰囲気が良いとは言えないが、楽しく会話をしている日常の姿等は、まとまりが有って見ていて安心が出来ます。「コロナウイルス」で面会が出来なくても、あまり寂しさを感じられない様です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(3階ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、認知症高齢者が安心・安全に暮らせるものとして、職員と話し合ってケア理念を作成したもので有り、管理者・職員で共有して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	手賀野地域にサラサホームが設立され地域密着となった時点には、地域の方がたを見学に招きグループホームを理解して頂き、今日に至っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所と地域は2008年から認知症を理解して頂く為に、昼食と一緒に食べて会話をしたり「いい日・いい日介護の日」を地域の主婦の実習としてを本年度まで、一度も欠かした事無く実施してきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は「新型コロナウイルス」の為、一度も実施出来ませんでした、「サラサだより」と案内はお届けしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、長年のお付き合いも有り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束なる行為は禁じて来ました。2階・3階がユニットになっており、1階は事務員と管理者が休みの日は時々玄関に鍵をかける場合がありますが、どちらかが休みの日はインターホンで連絡をお願いしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2階・3階とも虐待については会議の中で話し合いはしているが、「言葉の虐待なる言葉」は2階・3階もないと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を活用している方は、2階に1名と3階に1名おられます。成年後見制度に対して学べる機会があると良いです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時点も同じくですが、契約前に十分な説明を行い、納得の上で入所をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望も取り入れながら、その人らしく安心して日常生活が送れる支援をしているが、「コロナウイルス」流行の為に、望みある体制が困難だった。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	認知症介護は、以前とは異なり職員の要望や意見を取り入れたいが、現在は介護を希望する人材が少なくなり反映させる事、事態が困難になってきている。本年度は一度も運営推進会議ができなかった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働く意欲、質の向上の確保に対して努力をして学びたいと思う人材が少なくなり、自分の都合を優先させてしまう人材が多くなったと感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みとは、大変な努力と忍耐が必要になってきました。職場環境や条件について考えを変える必要もありと思われます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度は、同業者と交流する機会も持ち、サービスの質の向上もされてきたが、今年度は「新型コロナウイルス」の流行にて、そうした環境も、残念ながら全くなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サラサホーム的には、入所の時間は他利用者と一緒に昼食を食べる事から始めています。ご家族様はその時点で契約をしますが、ご飯を食べながら他利用者の方と会話が出来、自然になじめるものと思います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の居ない契約時に要望とか注意等お話し頂き、困った事等の把握を致します。(入所日と契約が決まる時点でホームの方針とか、本人様の様子等もお聞きしている)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	2階も3階も、会話の中から、本人の心の中を読み取り、ご本人の必要としていることからサービスが始まります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	2階、3階も同じく、本人を介護される側ではなく暮らしを共にする者同士として本人を支えていく関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族様との「絆」を大切にしながら共に本人を支えていく関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	私達の理想はそうですが大変に困難な事です。本人が大切にしてきた馴染みの場所や人との関係は応援は出来ても、ご家族様でないと出来ない事もあります。「コロナウイルス」が落ちついたら、色々な面で支援に努めたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2階ユニットも3階ユニットも支え合って生活している姿がみられ微笑ましく思います。人間ですから、時には気分悪くして居室に入ってしまう事も有りますが、仕方ない事と見守ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、残された方への気持ちを大切に、相談を受けたりお付き合いを継続してるお方様もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、その人らしく生きられる支援をしたい。本年度は、「新型コロナウイルス」の為、外出も出来なく、それでも共用の場所にて楽しく皆さんが笑顔で暮らせる支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホーム内で工夫をして楽しまれている。3階は女性ばかりのユニットなので仲良く会話している姿が良く見られます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面会も出来ず、心身の状態が悪いと感じられるお方には声掛け等を多くして見守りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、介護計画とモニタリングは行い現状に即した介護計画を作成しケア日誌に記入して様子を観察している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	上記と同じだが、ケアの実践など職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況等ニーズに対応して柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域との関わりは大変に恵まれたホームだと思います。手作りの野菜等を頂いたり本当に親身になって相談に乗って下さるし協力もして下さい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に変化があれば、協力医に相談し適切な医療を受けられるようお願いしている。ご家族と相談して適切な医療を受けられる様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化が感じられたら協力医に相談し紹介状をお願いしたり、適切な受診ができる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院に至った場合は、早期に退院できる様、病院関係者と情報交換や相談等を行っており、共に関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族様と終末期の有り方については、事業所で出来ることは十分に説明しながら方針を共有して支援させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練については、長年定期的に行っていたが、本年度はコロナウイルスの為に、そうした訓練の実施は一度も行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難については、必要な物品は保管して。日中であれば職員の人数も多くいるが、夜間に災害がおこった場合の体制については話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所している利用者の皆さんは、家族と一緒に生活している。特別でない限りは、自分の部屋として自由に暮して頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が言葉に出して話せない事は日常生活を観察していれば大体の事は理解できる。その場合は自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせず、一人ひとりのペースを大切にし、自分の家だと思って過せる支援をしたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに対して気になる人は全員ではないが、2階・3階に数人いる。言われても気にならない人もいるが職員は声をかけて支援していくべきだと思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近年では、以前とは変わったと感じる。食事作りのお手伝いを希望する方が居なくなった。職員の手作りの食事が楽しみな利用者様が多くなりました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや量の把握は、職員は理解している為に体調に合わせた量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ホームでは、朝夕の口腔ケアで清潔を保って頂いているが、自らお昼もケアを自身で行っている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけている為にトイレにお誘いする方もいるが、自分からトイレに行かれても、どうしても、おもらしではないけれど排泄が上手くできない方もおられズボンが汚染されている時もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は芋類・野菜などを多く食べて頂いているが、便秘に悩まされている方が、各階で2名ずつ位はいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて入浴を楽しめる様にしている。毎日入浴は出来るが基本は週に3日程で、行事以外の日はほとんど入浴できる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の家と同じ様に暮らせるホームを望んでいます。日中のお昼寝でも、安心して自室で休める状態を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法用量については理解しているが、協力医に相談して変更になる場合もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しい外出支援も、今年度はできませんでした。「新型コロナウイルス」の為ホーム内での小さな行事のみで終わってしまいました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援も面会も出来ず「コロナウイルス」が早く終息すれば良いと思うのみです。現在は寒くて頻繁には外には出られない状況だが、日光浴をかねて庭に出られる工夫をし、支援していきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に対しては、今まで一度も自分の手持ちを持ち歩く方はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのご家族とお話しされる方は時々ありますが、一人位の方だけです。手紙は良く頂きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地の良い空間づくりは、現在のままで良いと思います。異臭がない事が自慢でしょうか。高齢者独特の異臭が感じられない。歩行が安定している入居者様は、自由にホーム内を歩かれており、居心地良く暮らせていると思います。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどが共用空間で過ごされている利用者の方が多く、自由に暮せるホームです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり荷物が有っても、本人が混乱してしまう為、あっさり片付けやすくしています。長年の経験から、そのように感じました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の仕事を手伝って下さる方もいればいるいます。自分の家と思って安心と安全に暮らしていただく支援をしている。		